

～思い描く 未来に 向かって～

『せたがや探究的な学び』の手引き

探究
プロセス

せたがや
探究的な学び

共感・
協働

手引きの活用にあたって

世田谷区教育委員会 教育長 渡部 理枝

世田谷区では、急激に変化する社会の中で、幼児・児童・生徒一人一人が社会の担い手として自らが課題に向き合い判断して行動し、それぞれが思い描く未来を実現できる人材を育成するため、区独自の「キャリア・未来デザイン教育」を重点として教育施策を展開しています。

この「キャリア・未来デザイン教育」を実現するためには、「せたがや探究的な学び」へと学びの質的転換を図る必要があります。「せたがや探究的な学び」とは、世田谷区の幼児・児童・生徒の実態に即して「探究プロセス」「共感・協働」をキーワードにした指導改善の取り組みです。

世田谷区の幼児・児童・生徒が、「せたがや探究的な学び」を通して、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志が一層育まれることを目指しています。

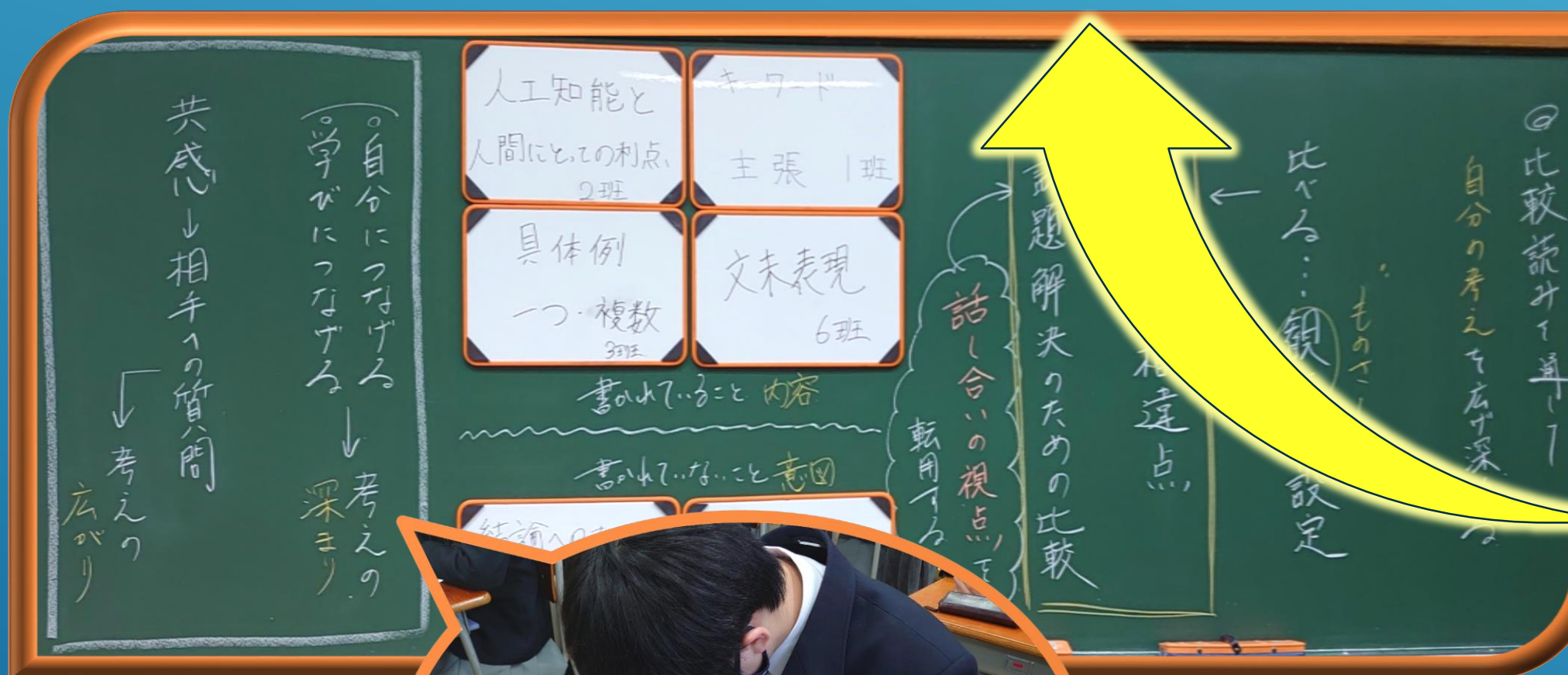
区内の全ての教員が幼児・児童・生徒一人一人の成長を強く願い、「せたがや探究的な学び」を通じた日々の指導改善に邁進されることを期待しています。

プロセス1：
課題を見だし、
把握している

自ら問いをもち、課題を設定する



学習活動において「探究のプロセス」を繰り返し、
発展させて教育内容や学び方を習得させる



プロセス4：
学びを振り返り
次につなげている

働かせた見方・考え方や身に付けた力を
振り返り新たな問いを見いだす

見通しをもち、既習事項や各教科の
見方・考え方を働かせる

プロセス2：
課題解決の
方法を考え
ている



「せたがや探究的な学び」を実現するためには、
幼児・児童・生徒が探究的に学べるようにすることが大事



多様な学びを共有し、
一人一人が個性・能力を発揮する

プロセス3：
協働して
学んでいる

幼稚園教育要領においては、幼児が身近な環境に主体的に関われるようにすること、学習指導要領においては「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。世田谷区では、より世田谷の幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通じた指導改善に取り組んでいく。

世田谷区の児童・生徒の実態とはいかなるものであろうか。一つに「学力は全体としておおむね定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる」ことが挙げられる。

学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく。



自己実現へ



「探究のプロセス」はいろいろな次元のサイクルがあり、例えば、教育活動の一瞬に位置付けられることも、週や日の指導計画、1単位時間や1単元、複数単元や年間等にまたがって位置付けられることもある。

幼児・児童・生徒が知的好奇心や探究心を喚起し、自ら「探究のプロセス」を発展させられるように教育活動をデザインすることが重要である。

他者や社会 とつながり 共感・協働 する

「探究のプロセス」を発展させるためには幼児・児童・生徒が他者や社会とつながり学びを広げ深めることが重要である。

そのためには、多様な他者や社会に自ら働きかけ、他者を共感的に受け止め尊重し合いながら協働して粘り強くよりよい課題解決に向けて取り組むことの基盤となる非認知的能力が欠かせない。



身近な人々、社会、自然等に
関わり、働きかける

探究して学ぶことの
よさを実感し、
安心して自信を
もって学べる



協力して試行錯誤しながら
粘り強く取り組む

一体感を高め
未知のことへの
挑戦を恐れず
トライ&エラーで
解決につなげる



互いのよさを
認め合い尊重し合う

多様な考え方や捉
え方、個性や能力
を生かし合う

意欲

自制
自律

調整
力

自己
肯定
感

尊重

協調
性

共感・協働
した学び

持続
力

集中
力

創造
力

受容

探究
心

忍耐
力

共感・協働した学びに関わる様々な非認知的能力を育成するためには、幼児期における頭も心も体も動かして対象と直接関わりながら総合的に学んでいく経験が重要である。

また、非認知的能力は幼児期だけではなく学齢期やそれ以降大人になっても多様な経験等を積み重ねることで育まれる。

幼児期と小・中学校における
学びの連続性を発展的に捉え、
他者や事物との関わりを広げさ
せて多様な体験を積ませる。



多様な他者や社会、自分の将来等
とつながることで、自らが思い描く
未来を実現できる人材を育成する
「キャリア・未来デザイン教育」が
展開される。

「せたがや探究的な学び」を通して育まれる資質・能力

学びを探究的にすることで・・・

自らの興味・関心や知的好奇心を喚起しながら日常生活や
既存の知識や経験を基に主体的に学ぶことができる

学ぶ意義を感じ、主体的に学び、問い続け、熟考し続ける
ことができる

知識と知識、知識と経験等を関連付けて構造化した知識を
生み出すことができる

課題解決のプロセスを経験して解決方法を体得することで
他の学びに転用できる

他者や社会等とつながり共感・協働することで・・・

視野が広がり、思考が柔軟になる

多角的視点、批判的思考力等が身に付き、それらを生かして
適切に課題を設定できるようになる

多様な価値観に触れ、意見を交わす中で、あらゆる他者を尊
重し、共に課題を解決する力が養われるようになる

ロールモデルを見ることで、自他の力を生かしながら共に
社会に参画しようとする意識が高まるようになる

「せたがや探究的な学び」を実現するための教員の指導力

探究的な学びを実現する上で重要なことは、

- ①自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して教育内容や学び方を幼児・児童・生徒が習得できるようにすること
- ②幼児・児童・生徒が多様な考えを受容し、学びをさらに一歩先へ進める。そのことで自らが成長し、将来が豊かなものになると実感させること

そのために、教員には特に以下のような指導力が求められる。

「探究のプロセス」を通してねらいを達成する指導力

- ・育成すべき資質・能力を教育活動の特質を踏まえた的確に捉える力
- ・協働的に学ぶことを通して深い学びが実現できる指導計画を組み立てる力
- ・問題意識を高めたり、探究を深めたりするための発問の工夫や教材・教具の活用力
- ・話し合いをファシリテートする力
- ・幼児・児童・生徒の学びのプロセスを形成的に捉えながら次の学びを引き出す力 等

共感・協働する学びを進める教育活動マネジメント力

- ・「探究的なプロセス」の中で効果的に協働する場面を設定する力
- ・一人一人の特性を的確に捉え、生かそうとする力
- ・互いの知識や技能を補い合い、集団としての目標達成に導ける力
- ・学びへの充足感と安心感（自己有用感）を生み出せる力
- ・学級・学校外へ学びを広げさせる力 等

「せたがや探究的な学び」コラム

幼児・児童・生徒自らが探究のプロセスを繰り返し、発展させていく学びや、多様な他者や社会とつながり共感・協働する学びを実現するためには、学習環境をデザインしていくことが重要である。

学習対象（ひと・もの・こと）と学習者をどのように出合わせるかを考え、幼児・児童・生徒の学びの広がりや深まりに合わせてデザインを発展させていく。その際に大切なことは、幼児・児童・生徒の「知りたい・つながりたい」を大切にすることである。

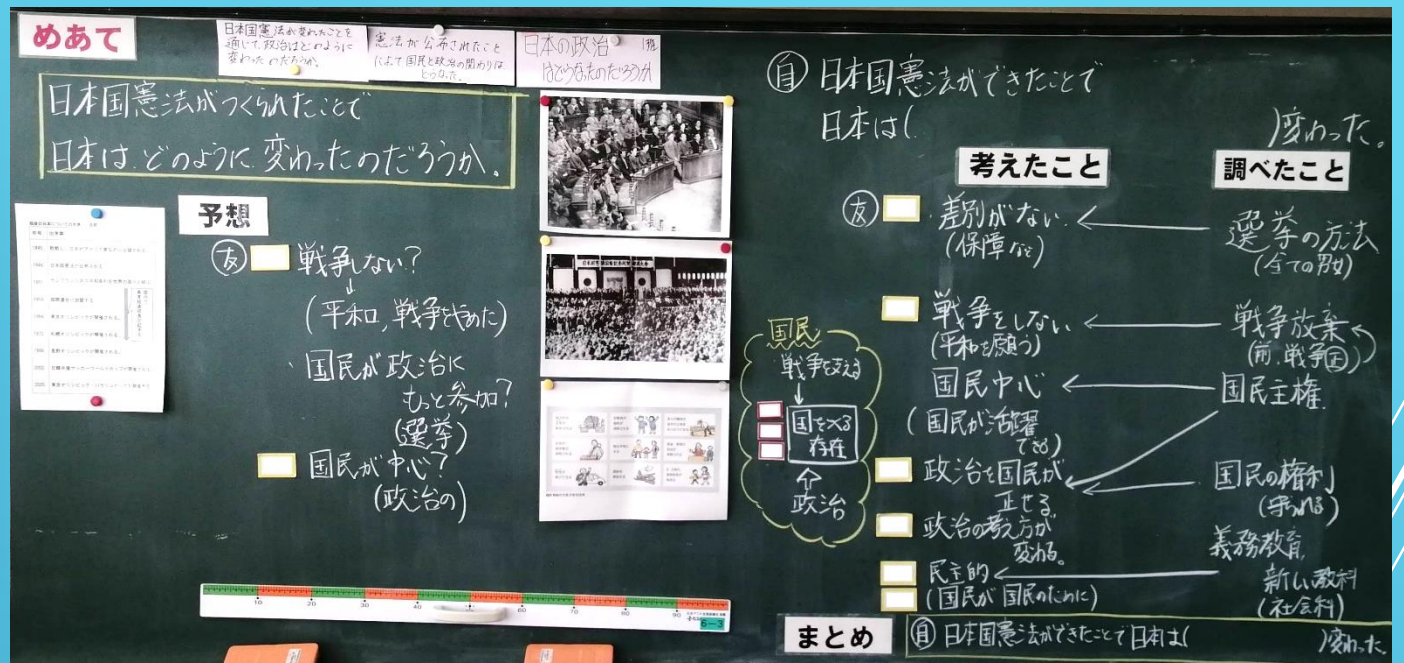
主体的に環境へ関わり満足感を味わう学び（遊び）（幼稚園）



その子なりのやり方やペースで繰り返しいろいろなことを体験して
みることで、その過程自体を楽しみ、友達や教師と関わっていくこと
の中に幼児の学びがあります。幼児期に多様な体験をし、様々なこと
に興味や関心を広げ、それらに自ら関わろうとする気持ちを育むことは、
小学校以降の教育との接続を確かなものとする事ができると考えて
います。

幼児が主体的に身近な環境に関わり、やってみたいと思えるように
するとともに試行錯誤する姿を認め、時間を掛けて取り組めるように
することで充実感や満足感が味わえるようにしましょう。

児童が目的意識を強くもって探究的な学びをスタート（小学校）



児童自ら「もの・こと・ひと」などに触れ、「知りたい!」「なぜ?」「どうして?」「解決したい!」という思いを高めながら、子どもの「問い」を引き出すことが大切です。

課題を発見し、探究的な学びのエンジンがかかった子どもたちは、「先生、今日のめあては、〇〇ですね!」と見通しをもって、自ら自力解決に向かっていきます。児童のやる気を引き出す、教師の発問や資料提示などのゆさぶりが大切です。児童が自立した学習者として生涯学び続ける基礎となる資質・能力を育むために指導を改善していきましょう。

各教科の中で他者や社会とつながり協働している学び（中学校）



選挙年齢が満18歳以上に引き下げられたことを踏まえ、選挙制度や参加することの重要性について生徒自ら探究的に学ぶことが重要となっています。そこで、生徒の中から数名の立候補者を立て、それぞれが演説した上で投票を行う模擬選挙を行っています。

その中で、ゲストティーチャーとして世田谷区の選挙管理委員会の方を招き、実際の選挙の争点やマニフェストなどを理解させることで議論が一気に加速します。立候補者がより具体的に提案し、生徒同士がよりよい課題解決に向けて熱い議論を交わすことを通して主体的に政治に参加する資質・能力を養うことができます。

第3学年 社会科「スーパーマーケットで働く人々」

1 本実践で目指す「せたがや探究的な学び」の児童の姿

問題意識をもち、深く考えようとするとともに、学習を振り返ったことを次の単元につなげようとする児童

本実践における「問題意識をもち、深く考えようとする」姿とは、スーパーマーケットに多くの客が来店することに着目し、販売の工夫を考えようとする姿である。また、「学習を振り返ったことを次の単元につなげようとする」姿とは、自分が理解できるようになったことや探究する方法を自覚し、次単元で活用しようとする姿である。

2 指導計画（全10時間）

プロセス1：
問題意識を引き出す資料の提示

つかむ

- ①自分たちはどのような店で買い物をしているのかを調べることを通して、購入する商品によって店を選んでいることを理解する。
- ②保護者にインタビューをしたり買い物調べを整理したりスーパーマーケットでの来店客数を調べたりすることを通して、感じたことや疑問を出し合い、各自が探究していく課題を明確にする。

【探究課題の例】

- ・なぜたくさんのお客さんが行くの？
- ・おすすめの商品はあるの？
- ・なぜ遠いところからもお客さんが行くの？

- ③各自の探求課題について予想を立て解決に向けた学習計画を立てる。

プロセス2：
情報を比較・関連付けするシンキングツールの活用

調べる

- ④⑤⑥各自の学習計画に基づいてスーパーマーケット見学やインタビュー、インターネット検索等により情報を集め、シンキングツールを活用して整理し、各自の予想を分析する。
- ⑦⑧整理したことを基に話し合うことや興味をもった商品の生産地調べを通して、スーパーマーケットの「安心安全の工夫」「商品価値を伝える工夫」「消費者嗜好に応える工夫」に触れながら、他者の視点を踏まえて予想の分析を深める。

プロセス3：
児童のみで考えをつなぎ、深め合う話し合い

まとめる

- ⑨各自の探求課題について調べたことをまとめ、発表し合うことを通して、スーパーマーケットは来店客を増やし売上を高めるために、消費者の願いと結びつけながら販売方法を工夫していることを理解する。
- ⑩単元の学習を振り返ることを通して、地域社会への理解の深まりや学習の仕方について次単元への目標をもつ。

プロセス4：
成長の自覚と次の学びにつながる振り返り

プロセス1：

1日の来客数と地域の人を利用していることが分かる資料を基に、疑問を引き出し、問題意識を高める。



プロセス2：

シンキングツールを活用して調べた情報を基に深い事柄に気付かせる。

思考の深化

スーパーマーケット	売り場の様子		
	肉	パン	さかな
していること	おすすめ品をバックやシールでくふうしている。	店内で焼いている	時刻によって売り場をかえる!!
どうしてそうしているのか	おすすめ品を見て、買ってもらえるように	出来たてをたべてもらえるように	お客様は時刻によって買いたいものがかわるからだそうです!
お客さんがたくさんくると、どうつながるのか	おすすめ品をバックやシールで工夫すると、「あっ、コレ買おう」と思っている人が来る?!	出来たてだと、ホカホカで美味しくなるからたくさん来ている	そうすると、お客様が食べたい物をすぐ選んだり、気分によってかえたりすることができて便利だから!?

プロセス3：

児童自らが考えをつなぎ深めるために他者の意見との関連を示す言葉を作り、話し合いを進行する。

★話し合い言葉を作って、身につけよう

	しゅるい	どんな言い方があるかな?	使えましたか? (正の字で)
1	声が聞こえないから聞きたい。	聞こえないから聞きたい。	
2	よく分からないからしつねする。	どう意味ですか。	
3	理由を言う。	なぜなら〜。	
4	例を言う。	たとえば〜。	
5	くらべる。	〜さんと比べて、〜さんと比べて。	
6	つけ足す。	〜さんにつけて	
7	つなげる。	〜さんと〜さんをつなげて	
8	例をたずねる。	たとえば何ですか。	
9	理由を聞く。	なぜですか。	
10	かいつくする。	つまり〜ということですか。	
11	友達のをしようか	〜さんの考えをしようか	
12	友達のを聞いて	〜さんの意見を聞いて	
13	前の勉強から思い出した。	前の勉強から思い出して	
14	よく分からなくなってしまった。	忘れた。分かんなくなくなった。	
15	助けてほしい	助けてほしい。助けてほしい。	
16	助けてあげたい。助けてあげられそう。	助けたい。助けてあげられそう。	

プロセス4：

1単位時間と単元全体の自己評価を1枚のワークシートにまとめさせる。

社会「はん売の仕事」 3年 組 番 名 前 ()

学習問題

予想

まとめ

今日の学習で大切なこと①

今日の学習で大切なこと②

今日の学習で大切なこと③

今日の学習で大切なこと④

ふりかえろう

「探究的な学びとなる授業構想を大事にする」

「店ではたらく人」の単元を探究的に学んできた児童が、単元の終末で「次やる消ぼうしさんや消ぼうし車はどういうくしくみなのかもべん強していきたいです。」と振り返っています。児童自らが学び方を体得し、学びのよさや楽しさを実感しているからこそその感想だと思えます。

単元を通して「探究のプロセス」を繰り返す中で、用語や語句を知るだけの表面的な学習から、問題意識をもって意味や働きを捉えようとする姿、学んだことを次の単元に生かす姿など、児童自らより深い真理に迫っていこうとする学びが実現します。

第3学年国語科「複数の資料から自分の考えを構築しよう」

1 本実践で目指す「せたがや探究的な学び」の生徒の姿

テーマに対する課題意識をもち、協働的な学びを通して自らの考えを広げ深めようとするとともに、自身の考えの変容を客観的に振り返り、次の学習につなげようとする生徒

本実践における「テーマに対する課題意識をもち、協働的な学びを通して自らの考えを広げ深めようとする」姿とは、「人工知能の発展は人類を幸せにするか」という課題について自分の考えをもち、資料や他者との関わりを通してその考えを広げたり深めたりする姿である。また、「自身の考えの変容を客観的に振り返り、次の学習につなげようとする」姿とは、学習を通して自分の考えがどのように変化したのかについて言語化するとともに、学んだことを他単元や他教科での学びとつなぐことができる姿である。

2 指導計画（全5時間）

プロセス1：
生徒自身が課題を設定する

①「人工知能」という単元のテーマについて考え、「人工知能の発展は人類を幸せにするか」について考えをもつことができる。

- ・ ウェビングマップを用いて人工知能に関するイメージを広げる。
- ・ 人工知能に関する2本の動画を見て、ウェビングマップを広げる。

プロセス2：
課題解決の見通しを考える

②2つの教材文を比較しながら読み、自身がより共感、納得できるものを、根拠をもって選ぶことができる。

- ・ 2つの教材文について、既習事項を用いた観点をもとに比較する。
- ・ 人工知能に対する考え方や、捉え方など、現時点での自身の考えと比較しながら文章を読む。

プロセス3：
協働して学ぶこと
のよさに気付く

③④選んだ文章の筆者の立場を明確にして、相手側からの質問に適切に答えることができる。

- ・ もう一方の文章の筆者に対して、より理解したいことや疑問に思ったことなどを質問にまとめる。
- ・ 選んだ文章の筆者の立場を明確にして相手側からの質問を想定し、その答えを用意する。

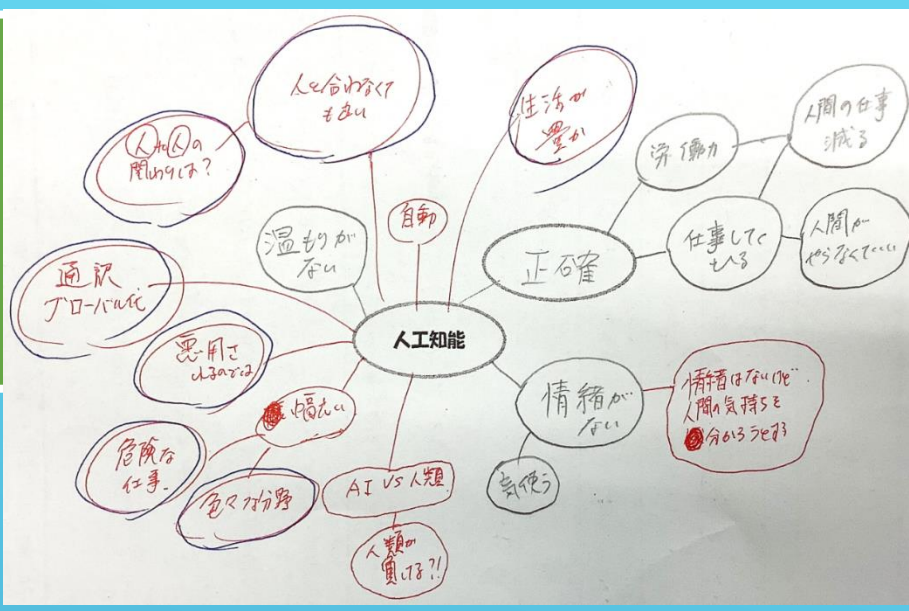
プロセス4：
本単元の学びを
次の学びにつなげる

⑤課題に対する自分の考えをまとめるとともに、自分の考えの広がりや深まりを自覚し、次の学習につなげることができる。

- ・ グループ内で考えを共有し、最終的な自分の考えをまとめる。
- ・ 単元を通して自分の考えがどのように変化したのかについて言語化する。

プロセス1:

生徒同士で説明し合う中で、感じたこと、考えたことを広げるためにウェビングマップを使用する。



プロセス2:

生徒とともに既習事項をまとめた「読解のものさし～説明的文章編～」を活用して複数の文章を読み取る。

- 読解のものさし ～説明的文章編～
- 一、書かれていることを読み取る
 - 二、題名(主張、話題、問い、課題、キーワードなどを一言で表しているもの)の役割はどのようなものか。
 - 三、段落の主語(段落に書かれていることの主体)はどうなっているか。
 - 四、キーワード(筆者が論を展開する(主張する)上で、中心に位置づける言葉)は何か。
 - 五、どのような事実(どの立場の目から見ても変わらないこと(できごと、数値))に対して、どのように解釈(筆者が事実をどのように認識しているか)しているか。
 - 六、筆者の意見(何らかの事実と、その解釈から導かれた筆者の思い)の中心は何か。
 - 七、筆者はどのような考え(特定の事実に対してではなく、これまでの経験等によって導かれた筆者の思い)をもっているか。
 - 八、具体例(筆者の主張を述べるために用いられる具体的な事象)として、何が挙げられているか。
 - 九、一般化(具体例から(抽象的な)ものごとの原理原則などを導くこと)主眼のヒント)がどこから始まるか。どのようにまとめられているか。
- 二、書かれていないこと(意図やねらい、背景)を構成、展開(どのようなまとまりが、どのような比重で、どのような順序で書かれているか)。
- 表現、語句・どのような言葉遣い、言い回しで書かれているか。(接続表現、文末表現)
- どのようなグラフや資料がどのように使われているか。
- 「なぜそうしたのか？」を考える(筆者の立場に立って想像する)

プロセス3:

文章を根拠にして協議を深めるために「筆者の立場で、相手からの質問に答える」というホットシーティングの手法を用いる。



プロセス4:

単元全体を振り返り自分の考えの変化について、客観的に認知させた。

※実際の生徒の記述→

今回の単元を通して私の考えは(強化・変容・転換)しました

(理由)最初の授業では：人工知能の発展は人類の生活を幸せにしないかと思っていた。しかし、多くの人と意見交換をして、自分と似たような意見を聞いて自分の考えが一度強化されたが、今は人工知能の発展は人類も幸せにする可能性があるかと思っている。最初の考えと同じように：よくないという考えもある。しかし、人工知能に頼りにせずどこまで自分で行動して何を任せるか、自分をコントロールする上で便利に思われるべきでない豊かな生活になるかと思う。人工知能と人間の長所と短所を考え、そこから学ぶことで人間の生活は幸せになると思う。

「それぞれのプロセスで大切なこと」

この事例は、思考の広がりや深まりが期待できる題材を用意し、自己選択と自己決定を保障する学習展開になっています。また、比較読みを取り入れたことは、生徒の主体的な判断を促す上で効果的です。

協働的な学びの質を高めるために、本事例のように、ウェビングマップやタブレット端末を利用して思考を可視化しながら、他者との共通点や相違点に気付かせていくことは、大変効果があります。プロセス4にあるように、終末で協働的な学びを自己の学びにつなげることで、探究的な学びのよさを一人一人が実感できるはずで

学校の取組みを推進する際に参考となるチェックリスト

大項目	チェック項目	✓
教育活動	探究的なプロセスを取り入れた指導計画となっているか。	
	「身に付ける力」と指導計画を明確にしているか。	
	幼児・児童・生徒の知識や経験（既習事項）と知識（新たな知識）を関連付け、再構築させるための指導者の教材研究は十分か。	
	広げる、つなげる、ゆさぶる等の発問や指示、進行、支援があるか。	
園・校内研究	他者や社会などにつながり、共感・協働する学びや振り返りの工夫があるか。	
	探究を軸にした園・校内研究の推進が年間で計画的に行われているか。	
	学習指導案が探究を意識したものになっているか。	
	探究のスタイル（学び方）の共有が行われているか。	
園・校内研修	探究の学習環境デザイン（ひと、もの、こと）の整理がされ、共有されているか。	
	手引きを活用し、探究の理念や指導の基本を共通理解しているか。	
	研修や公開保育・授業公開等に参加した教員が伝達講習をしているか。	
	教員間で探究を意識した話題が共有されているか。	
	互いの力を尊重し合う集団の育成に向けた具体的方策が共有されているか。	
<p>※学校独自の視点をお入れください</p>		

「チェックリストの有効な活用について」

探究的な学びを定着させるには、教職員の組織的な取組みが大切です。このチェックリストを参考に、各園・学校で統一したリストを活用するようにします。

特に、探究的な学びのプロセスは、教育活動の特質に応じて「課題把握」「見通しをもつ」「自力解決から協働的な学び（言語活動）へ」「振り返り」です。これらを意図的、計画的に取り入れることで、講義型と明確に区別します。中でも、協働的な学びに「葛藤」や「多角的な対話」が起こるように指導者がファシリテートすることで、幼児・児童・生徒たち自らが模索しながらゴールを目指すように支援します。指導者が設定したゴールに向かわせるのではなく、幼児・児童・生徒たちが試行錯誤しながら、あきらめずに、創意工夫したり見方を変えたりして探究するプロセスを重視しましょう。

FAQ（よくある質問と回答）

項目	質問	回答
教育課程関係	幼稚園の教育課程にも位置付ける必要があるのか	身体感覚を伴う多様な活動体験を通して豊かな感性や生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を育む活動等を位置付ける必要がある。
	「主体的・対話的で深い学び」と違いはあるのか。	基本的な考え方に違いはなくより世田谷区の児童・生徒の実態に即した授業改善の視点である。学校では自校の実態に即した授業改善を推進してほしい。
	「総合的な学習の時間」で取り組めばいいのか。	「総合的な学習の時間」だけではなく各教科等においても教科等の特質を踏まえて取り組んでほしい。
	年間指導計画や単元指導計画を見直す必要があるのか。	作成済みの計画に探究のプロセスや協働的な学びが位置付けられていれば、必ずしも大きく見直す必要はない。
	これまでより授業時数を増やす必要が出てくるのか	学びを広げる際などに時数増が想定されるが、他教科等との関連を図るなどして過度な増加とならないようにしてほしい。
	評価規準や評定の仕方はこれまでと変わるのか。	評価に関する基本方針は変わらないが、各教科等の評価規準に基づき探究のプロセスや協働的な学びにおける一人一人の学習状況を丁寧に見取ってほしい。
指導の工夫	どのように教材との出会わせ方を工夫したらよいのか。	何について学ぶのか、方向性やある程度の範囲が児童・生徒に伝わり、様々な疑問や探究意欲が喚起されるよう工夫してほしい。
	互いの力を尊重し合う学習集団を育成する具体的な方法を知りたい。	学習規律を保つことと様々な児童・生徒の特性や能力を生かすことを両立させることが大切である。多様な学びの在り方を認めることも重要である。 ※参考「教室掲示例」 (:X) 共有フォルダ
	探究のプロセスにおいて個の学びと全体の学びをつなげるポイントは何か。	全体で協働的に学ぶよさを見童・生徒が味わえるように構想することが大きなポイントとなる。
	単なる感想ではなく学びの振り返りをさせるためのポイントは何か。	児童・生徒が「何について学んだのか」「どのような視点で振り返るのか」を理解していることが大切である。※参考「振り返り例」 (:X) 共有フォルダ
	知識・技能の習得がおろそかになってしまわないか。	個別の知識・技能の定着だけではなく、探究のプロセスでそれらが相互につながり関連付けられ、社会の中で生きて働く知識を習得させる必要がある。
	小学1年生で「探究」は難しいのではないか。	幼児期の学びとのつながりを意識して発達段階と教科の特質を踏まえることで実現できると考える。

「Q、特別支援学級（教室）ではどのように進めたらいいですか？」への回答

障害がある子にとって自分で課題を設定し、解決することは難しいと思うかもしれませんが、やりたいことや学びたいことは一人一人もっているはずで、探究的な学びによる授業改善とは、一人一人の個性や特性を生かしながら、教えられることだけでなく、自らの意思で学んでいく過程を大切にすることです。また、協働した学びを実現するために、様々な「ひと・もの・こと」との関わりをつくっていくとともに、体験学習を重視していくことが大切です。

「せたがや探究的な学び」で、授業はどう変わるでしょうか。

授業は、子ども一人一人の探究の過程となります。教材や課題とじっくり向き合うことを通して自分なりの問いをもち、その問いを追究していくことが重視されます。一人一人の問いの追究は、子ども同士の共感や協働を基盤として進められます。個性的な学びに基づく多様な問いとその追究の方法が尊重され、他者の学びを手がかりに自分の学びを深めていけるような相互に学び合う関係づくりが目指されます。

相互に学び合う関係のもと、一人一人の自分らしい学びが保障されることで、授業は「自己実現」つまり「なりたい自分になっていく」ための場となるでしょう。

子どもは本来的には能動的であり、学びは対話的な過程です。そして、授業は知識を得るだけではなく、学び方、「ひと・もの・こと」との向き合い方、そして生き方を学ぶ場なのです。このような子ども観、学習観、授業観をよりどころとしながら、この手引きを活用した校内研究や校内研修が活発に行われ、「探究プロセス」のある授業とはどのような授業かを先生方自身が探究していただけることを願っています。

「せたがや探究的な学び推進委員会」メンバー ※敬称略

委員長	世田谷区教育委員会事務局	教育指導課長	毛利 元一
学識経験者	東京大学大学院教育学研究科	教授	藤江 康彦
オブザーバー	秋田県大館市教育研究所	所長	米澤 貴子
	世田谷区立多間幼稚園	園長	山路 智之
	世田谷区立代沢小学校	校長	諸角 哲男
	世田谷区立世田谷中学校	校長	今田 敏弘
	世田谷区立経堂小学校	校長	安藤 由季子
	世田谷区立富士中学校	校長	前田 浩
	世田谷区立祖師谷小学校	校長	篠原 和也
	世田谷区立桜丘中学校	校長	加藤 敏久
	世田谷区立経堂小学校	指導教諭	横田 富信
	世田谷区立三宿中学校	主幹教諭	栃木 昌晃

世田谷区教育委員会教育指導課 令和4年 発行

電話 03-5432-2703 / FAX 03-5432-3041

Email: SEA02251@mb.city.setagaya.tokyo.jp